

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月16日

協議会名:中土佐町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 中土佐ハイヤー	①萩原・大野線 ②楠ノ川線 ③長沢・大坂線 ④下ル川線 ⑤萩中線 ⑥高樋線 ⑦上ノ加江線	<p>【前回評価結果の概要】 引き続き、意見交換会や既存利用者の定着や新規利用者の獲得に向けた取組を継続いただくとともに、住民にとってより利用しやすいサービスを提供いただくことをお願いします。</p> <p>【評価結果の反映状況】 本年度も意見交換会及び個別訪問を実施し、地域の移動ニーズや要望を把握するとともに、地域公共交通の利用方法の周知など利用促進に取り組んだ。 また、新規利用者の獲得に向けたお出かけイベントを地域の協力を得て、開催した。</p>	B 事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった。  実施できなかった事業は、バス乗り方教室であり、R7年9月に開催を予定していたが、関係者との調整が整わず、R7年12月実施に変更となったためである。	B 目標2コミュニティバス利用者数を増加させる 【目標達成率】83.2% (目標8,510人/年) 【利用者数】7,077人/年 (対前年比98.5%) (対前々年比97.8%) 【1便あたりの平均利用者数】 ①1.50人②1.88人③1.21人④5.34人⑤3.52人⑥1.50人⑦1.88人 【収支率】3.8% (前年度4.0%) (前々年度4.6%) ①萩原・大野線(目標900人⇒実績618人) ②楠ノ川線(目標1,080人⇒実績690人) ③長沢・大坂線(目標840人⇒実績499人) ④下ル川線(目標1,950人⇒実績2,223人) ⑤萩中線(目標1,430人⇒実績1,463人) ⑥高樋線(目標940人⇒実績616人) ⑦上ノ加江線(目標1,370人⇒実績968人) 全体的な利用者数減少の要因として、毎週のように利用してくれていた人が亡くなったり、施設に入ったりするなど地域の状況が変わってきていることが大きいと考える。また、上ノ加江地区では地区唯一であったスーパーマーケットの閉店に伴い、地区生活者の移動に変化が生じたことも大きな要因と考える。 一方で大野見地区では利用が拡大している路線もあり、住民の楽しみと連携した運行やニーズの変化に対応した路線再編の効果が現れてきているものと推測する。  目標3バスバス交付対象者の所持率を高める 【目標達成率】61.1% 目標:50% 実績:30.5%(対象者3,084人申請者942人)  目標5コミュニティバスの公的資金投入額を維持する 【目標達成率】93.3% 目標:2,345円/人 実績:2,513円/人 利用者数の減少及び燃料費等の増が主な要因である。  目標7コミュニティバスの収支率を改善させる 【目標達成率】82.6% 目標:4.6%(R5年実績より悪化させない) 実績:3.8% 利用者数の減少及び燃料費等の増が主な要因である。  目標11中心部でのコミュニティバス乗降数を維持する 【目標達成率】105.7% 目標:6,746人(R5実績を維持する) 実績:7,131人	<p>令和6年3月に策定した地域公共交通計画に則り、公共交通の利用促進に向けた周知活動や地区における意見交換会等を引き続き実施する。</p> <p>また、大野見地区において利用拡大の効果に繋がっている地域レクリエーションとの連携や、路線再編による移動ニーズへの対応などを参考として、他地域における活用の検討をすすめる。</p> <p>さらに、令和5年度に導入した高齢者等外出支援事業(バスパス)デジタル化についても、引き続き周知を行い、未利用者に公共交通を知ってもらい、体験してもらえよう福祉部門や関係団体と連携した取り組みを展開していく。</p>